



住みやすいまちづくり・子育て支援・林業振興について

やなぎさわ ひろ ゆき
柳沢 浩之 (清風クラブ)

地域の活性化について

問 人口減少が進んでいる。平成25年3月末と令和5年3月末の旧安中地域と旧松井田地域の人口の推移は。

答 (市民環境部長) 旧安中地域は、47,046人から43,096人へ3,950人減少、旧松井田地域は、15,010人から11,934人へ3,076人減少、市全体で、7,026人減少です。全ての地区で人口減少しています。

問 磯部地区の人口の推移は。

答 (同部長) 磯部地域は、5,755人から5,110人へ645人の減少です。

問 磯部地区にも若い世帯が移住している。住みやすい・子育てしやすいまちづくりの考え方について生活環境の視点からは。

答 (保健福祉部長) 子育て世帯が安全で快適に暮らせるまちづくりです。公園などのコミュニティ空間の整備には、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れることです。

問 子育て世帯からは、子どもたちと遊べる公園が欲しいとの要望がある。公園整備は。

答 (まちづくり部長) 新規公園の整備は、少子高齢化が進む社会情勢を見据えながら慎重に検討していきます。既存公園の改修等は、住民のニーズを勘案し計画を立て実施していきます。

問 若い世帯が移住定住するためには、住居の確保は重要。今後の市営住宅のあり方は。

答 (同部長) 市営住宅等長寿命化計画の中で、居住性向上型として子育て世帯の入居を促進するため、改修工事を行う予定です。

問 市営住宅の所得制限をなくす考えは。

答 (同部長) 収入の条件をなくすことについては、市営住宅の有効活用を考慮し、先進事例の研究を進めていきます。

その他、新たな鉄道のあり方、子どもの権利の尊重、林業の活性化について質問しました。



市民サービスの向上・生活支援事業・認知症基本法の理念に基づく施策について

むしゃ よう こ
武者 葉子 (公明党)

「書かない窓口」について

問 市民サービスの向上のため、申請書を書かない、口頭で対応、署名で各種証明書が発行される「書かない窓口」を導入する考えは。

答 (企画政策部長) 大きなメリットが考えられます。新庁舎建設後を見据え、書かない窓口を始め積極的にDXを推進します。

投票しやすい環境整備について

問 投票する際に支援が必要な人が、事前に支援カードに記入し持参することで、必要な支援を受けられ、投票がしやすくなる支援カードの導入の考えは。

答 (選挙管理委員会書記長) 先進事例を参考に、導入に向け積極的に対応します。

「制服バンク」事業について

問 もったいないをありがとうへつなぐ制服バンク事業を実施する自治体があるが、実施の考えは。

答 (保健福祉部長) 市にも相談が寄せられています。物価高騰による支援としてもありがたい取り組みと考えます。様々な課題がありますが、関係機関と相談し、導入に向け検討します。

認知症当事者や家族への支援について

問 認知症基本法施行により、支援はどのように変わったのか。

答 (保健福祉部長) 当事者の声を基に計画し、地域で安心して暮らせる支援を進めます。



市役所の窓口業務